

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立岩松小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・問いを基調とした授業づくりとAIドリル等の活用により、主体的で深まりのある学びの推進が図られた。今後は、問いの質の向上と個別最適な学びのさらなる充実が期待される。 ・早期把握・早期支援の体制に一部課題が見られることから、情報共有の徹底と役割の明確化を図り、チームによる組織的対応を強化して安心して学べる環境づくりを充実させる。 ・系統的なカリキュラムのもと、異学年合同学習を取り入れながら、互いを認め合い支え合う人間関係を育み、主体的・探究的な学びを発展させ、その成果を各教科等へ生かす。
------------------	---

2 学校教育目標	<p>「自律」・「尊重」・「挑戦」を大切にしたい学びがある学校 ～自ら未来を拓く「エージェント」としての主体性の育成～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>①問いを基調とした授業改善と個別最適な学びの充実を通して、子どもを教えられる対象から自ら学びを創り出す主体（エージェント）へと転換するとともに、教師は学びを支えるファシリテーター（伴走者）へと役割を転換し、主体的に学び続ける児童の育成を図る。</p> <p>②組織的な支援体制の強化により、児童一人ひとりが安心して学べる教育環境の充実を図る。</p> <p>③探究的な学びの充実と教科横断的な学びの推進を図るとともに、縦割り（異学年）での学びを通して、互いを認め合い支え合う人間関係を育み、協働的・主体的な学びを深化させる。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		
●学力の向上	○子どもが「問い」をもって学び、自分に合った学び方で理解を深める授業の推進	○児童アンケートで授業について「わかる・楽しい」と回答する児童の割合を85%以上とする。 ○自ら目標を設定し、主体的に取り組んでいると回答する児童の割合が80%以上とする。	・ICTやQubena等を活用し、児童の疑問から学習課題(問い)を設定するとともに、毎時間の振り返りを通して自分の考えを言語化する場面を全学年で設定する。 ・自由進度学習において、児童自らが目標を設定し、学び方を調整する場を保障する。 ・シン読解力で問題文の構造を捉え、数直線や図で可視化し、既習内容と結び付けながら概念理解を深める。						・学力向上コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートで、「楽しく(意欲的に)学校生活を送っている」と回答する児童の割合を90%以上とする。 ○自問清掃を頑張っていると感じる児童の割合を90%以上とする。	・人権教室で、児童の実態に合わせた話や活動をして、自分や友だちを大切にしようという気持ちをもたせ、自己肯定感を高める。 ・自問清掃の取組を通して、自律的に行動する力や他者と協力する姿勢、思いやりの心を育てる。						・道徳教育担当 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめをなくす宣言を守っている」と回答する児童の割合を90%以上とする。 ○「いじめ防止の取り組みの成果が出ている」と肯定的な回答の割合を90%以上とする。	・「〇月の心」や「Q-Uテスト」、「教育相談週間」、月1回の「生活指導・教育相談会」を実施し、SC・SSWと連携しながら児童の実態を組織的に共有する。 ・報告・連絡・相談の徹底により、事案の見落としを限りなくゼロに近づけ、組織としていじめ防止に取り組む。 ・児童主体のルールメイキングを推進し、互いを尊重し合う学級・学校風土を醸成する。						・生徒指導主任 ・教育相談担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童の割合を90%以上とする。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童の割合を80%以上とする。	・がまん日記や帰りの会などで、児童のよいところを認める機会を設ける。 ・総合的な学習の時間、生活科、社会科、道徳などの教科等を通して、自分の生活を振り返ったり、将来の夢や目標について考えたりする活動を行う。また、学ぶことの意味や意義について考える機会を設けるとともに、縦割り学びなどを通して、主体的に学ぼうとする姿勢を育てる。 ・「自律を促す4つの言葉」を基盤に、自己理解を深めながら、自ら目標を設定し、その実現に向けて主体的に行動する力を育てる。						・教育相談担当 ・道徳教育担当
	○既存の学校のきまりを見直しながら、自分たちで考えてよりよい学校生活をつくる態度を育てる。	○「友達のことを考えて行動している」と回答する児童の割合を90%以上とする。 ○「自分たちでルールを考える機会がある」と回答する児童の割合を80%以上とする。	・既存の学校のきまりを児童会や学級活動で見直し、自分たちでルールを考える機会を設ける。 ・トラブルが起きた際はすぐに答えを示すのではなく、対話を通して子ども自身に考えさせ、解決策を見出す支援を行う。						・特別活動主任 ・児童会活動担当
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○睡眠時間の確保ができている児童を60%以上とする。 ○朝食喫食率を90%以上とする。	・年2回の健康アンケートでメディア利用等実態を把握し、睡眠との関係を指導することで、児童が自ら生活を改善できるようにする。 ・「家庭内スマホ憲法」を策定し、スマホ利用の目的やリスクを理解させるとともに、保護者との対話を通して利用ルールの合意形成を支援する。 ・生活習慣や食育に関する指導を行い、児童が自分の生活を見直し、よりよい習慣を選択できるようにする。						・食育担当 ・保健主事
	○運動習慣の改善や定着化	○運動習慣の定着を図ることを目的とし、春季・秋季においては運動実施率70%以上(※高低温多湿時等を除く)とする。 ○健康委員会を中心に「スポーツ週間」を実施し、児童が楽しみながら運動に親しむ機会をつくる。	○健康委員会を中心に「スポーツ週間」を実施し、全学年が参加できるイベントを企画する。						・体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●職員1人当たりの年次休暇の取得日数を14日以上とする。	・AARサイクルを徹底し、行事後1週間以内に次年度提案資料を作成することで業務を効率化する。 ・毎週金曜をノー残業デーとし、週1回の定時退勤日を各自が主体的にマネジメントする。さらに、パースデー休暇も実施することで、職員のWell-being向上を図る。						・管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育体制の強化と充実	・必要な支援や合理的配慮の検討をチームで行い、実施につなぐ。 ・個別的教育支援計画に基づき、児童自身の自己理解を深め、自分らしく生きるために行動する力を育てる。	・的確な児童理解と必要な支援や合理的配慮の検討、実施に向けて、月1回以上「特支ミーティング」を行う。 ・個別的教育支援計画に基づいて、必要な支援や特別支援学級では自立活動を実施する。						・特別支援教育コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		
○読書活動の推進	○主体的な読書活動の推進	○貸出冊数年間150冊以上の児童の割合を80%以上とする。 ○「本を読んで、自分の世界が広がったと思う」と回答する児童の割合を80%以上とする。	○読書への興味を高める環境整備(図書館だよりや図書室前の掲示等で本の紹介、3冊貸し出し等)を行う。 ○図書委員会の活動の一つとして、ビブリオバトルを実施する。						・図書担当
◎ふるさと学習の充実	○ふるさと小(岩松)の歴史や文化を学ぶことで、その良さに気づき、未来の小城について考えさせる教育活動の推進。	○「ふるさと小の良さに気づいた」と回答する児童を90%以上とする。	4～6年生を対象とした「岩松検定」を実施し、家庭と連携して学びを振り返ることで、ふるさとへの誇りを醸成する。						・教務主任 ・総合的な学習主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--